

研究主題

難言教育の専門性向上に向けて

～ことばのやり取りに弱さのある児童への指導～

～難聴教育の理解と専門性の向上について～

団体概要：東京都公立学校難聴・言語障害教育研究協議会は、東京都の公立学校難聴・言語障害通級指導学級の研究会である。小学校を近隣の区市村で11ブロック、中学校を1ブロックに分け、ブロックごとに研究を行っている。毎年2～3ブロックが都難言協全体で報告しているが、そのブロック研究について報告する。

I 研究の目的と方法（城南ブロック）

大田区・品川区・港区・三宅村の8校からなる城南ブロックでは、授業研究をする中で、事例に共通する課題として、児童のことばのやり取りの弱さが浮かび上がってきた。

そこで、「ことばのやり取りに弱さのある児童への指導」をテーマとし、言語の4側面の視点からやり取りの弱さを改善するための指導方法について検討することにした。

研究を深めていくために、早稲田大学教職大学院の長岡恵理先生に御指導をいただいた。

本研究は、分科会形式で、以下の指導の重点に絞って教材研究を行った。

<指導の重点>

音韻分科会：拍や文字の意識と音韻弁別力を育てること

意味分科会：語想起の力を向上させること

語彙を拡充させること

統語分科会：ことばをまとめること・文を組み立てること

語用分科会：具体物を介して会話を続けようとする意識を高めること

1つのテーマに関連付けて、会話にリズムをもたせること

II 研究の内容（城南ブロック）

やり取りの弱さを改善するための教材を作成し、それを使用した指導時のことばのやり取りの様子をビデオやトランスクリプトの活用で見える形にして、有効性について検討した。その際、指導者の言葉掛けについても検討した。検討したことを生かして教材のブラッシュアップを行い、児童の変容を把握した。

III 研究の成果と課題（城南ブロック）

各側面からのアプローチと教材の共有実践により、児童の変容が見られた。そのことを長岡先生からは「指導の観点と目標が明確になり、児童の主體的・自律的学習が促されることにつながった」と評価していただいた。

また、共有した教材のブラッシュアップがまだ不十分であることや、ことばのやり取りの成長をどのように評価していくかは、今後の課題となった。

Ⅳ 研究の目的と方法（中学ブロック）

都内14校からなる中学ブロックでは、中学難聴学級教員に求められる専門性の維持、向上、引継ぎに大きな課題がある。そこで、「難聴教育の理解と専門性の向上について」をテーマとし、**専門性チェックリスト**を活用し研究を進めることにした。

資料

チェック日 令和 年 月 日

中学校難聴学級 専門性チェックリスト (初版)

学校名: _____ 氏名: _____

No.	領域	知識・スキル	用語	評価
1	難聴理解	聞こえの仕組みが分かる	外耳、中耳、内耳、聴力、耳鳴り、耳痛	

資料

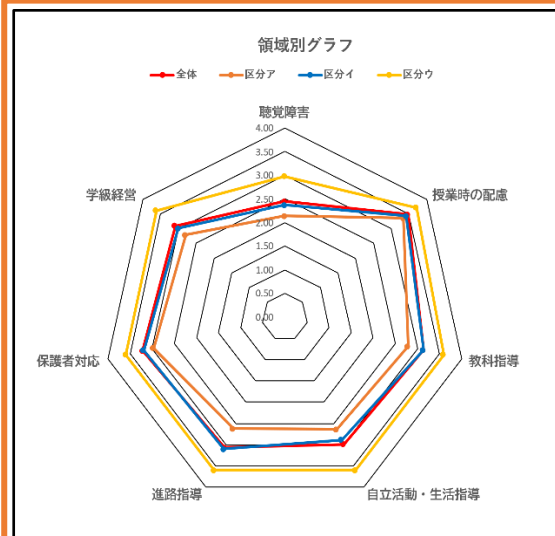
チェック日 令和 年 月 日

中学校難聴学級 専門性チェックリスト (改訂版)

学校名: _____ 氏名: _____

No.	領域	知識・スキル	用語	評価
40	福祉	自閉症の理解について実態把握を認めることができる	自閉症、自閉傾向、自閉スペクトラム、高機能自閉症	

改訂版は「自立活動」や「進路指導」の項目強化、「福祉」領域追加など、より細かく専門性を網羅した140項目のリストになった。



専門性実態把握のため、上記リストを活用した。難聴学級経験年数ごとにグループ分けし、各項目の専門性について点数化しグラフに示している。

- 区分ア…経験年数1～3年
- 区分イ…経験年数4～8年
- 区分ウ…経験年数9年以上

難聴教育理解の基本となる「聴覚障害」の領域の専門性向上が課題となっている。実態把握の初年度より翌年度の方が全体的に伸びた。点数の見える化が課題を明確にし、各自が自己研鑽を積んだ結果と思われる。

Ⅴ 研究の内容（中学ブロック）

専門性実態把握からの分析及び考察

(ア・イ・ウは左記区分の経験年数)

- ア 難聴教育の理解が不十分な中で難聴生徒の指導にあたることの悩みが多い。
- イ 学級経営業務への対応に追われ、必要な研修時間確保が課題に挙げられる。
- ウ 若手教員育成を意識しつつ専門性の伸び悩みを感じている教員もいる。等

Ⅵ 研究の成果と課題（中学ブロック）

難聴教育の理解に関する研修の緊急性・必要性が高いことが分かった。難聴教育のスペシャリストによる研修は継続したい。

専門性チェックリストは「やることリスト」としての役割も担い、専門性を確認する一つの指標として活用することができた。

研究を通し、専門性向上に対する意識の底上げができたことは大きい。専門性向上の課題は、自己研鑽の限界を補うべく授業を見合う相互研修や事例検討も地道に継続し、効果的なOJTを進めていきたい。

<連絡先>

団体名		東京都立学校難聴・言語障害教育研究協議会
代表者	所属	足立区立千寿本町小学校
	職 氏名	校長 増田 好範
	連絡先	03-3888-8361
事務局	所属	足立区立千寿本町小学校
	職 氏名	主任教諭 西永 仁美
	連絡先	03-3870-4423